

福井県高P連会報

発行人 福井県高等学校PTA連合会
(福井県生活学習館「ユー・アイふくい」内) 掛 谷 龍 一



昨年度に引き続き福井県高等学校PTA連合会の会長を務めさせていただきます、科学技術高校PTA顧問の掛谷龍一です。今年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、平成二十四年度は、県高P連「創立五十周年」という節目の年です。連合会では、十一月十日に記念式典・記念祝賀会を、二月末に記念誌の発刊を計画しています。県高P連のさらなる発展のために、記念事業の成功に向けて、実行委員会を中心に準備を進めているところです。

そして、平成二十六年八月に、本県で開催される「全国高等学校PTA連合会大会」の準備を本格化させる年度でもあります。七月二十一日には準備委員会設立総会を開催し、大会の成功に向け、皆様のご協力を仰ぎながら、計画を進めていきたいと考えております。

また、昨今、新聞等で報道されております全国的なPTA会費問題ですが、本県での今後のあり方等について、各校PTAのご意見を伺いながら、県教育委員会や校長会とも十分に話をしていくたいと思っております。

ところで、昨年度皆様からお寄せいただきました東日本大震災の義援金は、全国で一億一千万円を超えて、被災地各県に送られました。全国高P連総会の席上で、支援を受けた県連を代表し福島県高P連会長より感謝とお礼の言葉がありました。仲間の善意と絆の強さを改めて実感いたしました。全国高P連では、今後も義援金を募る活動を継続させることです。

福井県高等学校PTA連合会におきましても『教育と共育』の考え方のもと、さまざまな情報を会員同士で共有し、協力しながら、子どもとともに育つていけるようなPTA活動を展開したいと考えております。

一年間精一杯努めたいと思いますので、どうかご協力ご支援をお願いいたします。



福井県高等学校PTA連合会 会長 掛 谷 龍 一

教育と共育

第50回県高P連年次総会

会長に掛谷龍一氏(科学技術高等学校PTA顧問)を再選



ならない。また、全国大会の準備も本格的に進めていかなければならぬ。忙しい一年になると思うが、みんなで協力しながら頑張っていきましょう」と挨拶した。

来賓として出席された林雅則県教育長は、「大きな災害を経験して、人と人とのつながりや絆が見直されているが、福井県の幸福度日本一や小・中学生の学力・体力日本一を支えているのも福井県に根強く残っている地域・家庭・人々のつながりの強さだと思う。激動の時代、グローバル化の時代の中で、生きる力や学力の向上は極めて重要だが、県教委では五月に『学力向上センター』を設け、『福井型十八年教育』実現のために、教材開発や授業改善に取り組んでいる。また、スポーツの面では、今年北信越で開催される全国高校総体で福井県の高校生の力を大きくアピールしてもらい、六年後の福井国体につないでいただきたい。職業教育については、福井の地域を支える重要な人材育成のため、学校と企業との連携を強化し、古くなつた学校の設備を新しくするなど、教育の充実に努めさせていただきたい。」と挨拶



続いて、山本道雄県高等学校長協会長(羽水高校長)は、「東日本大震災を考えると、何気なく送っている日常が、決して当たり前のものではなく、多くの幸せの結果であることを忘れてはいけない。学校においても一人ひとりの生徒の命を大切にし、安全に安心して高校生活を送れるよう万全の配慮をしていきたい。先日の春季高校総体では、白熱した素晴らしい試合が展開された。今年の全国高校総体は北信越で、全国高校総文祭は富山县で開催されるが、エネルギー・若い力で社会全体を明るい色に変えてくれると思う。各学校においては、生徒一人ひとりの進路実現のため教育活動に邁進しているが、今後とも保護者の皆様と手を取り合つて生徒のために頑張っていきたいと思ってるので、ご協力をお願いしたい」と挨拶された。

この後 PTA活動に特に功績のあつた五名が県教育委員会から表彰され、各校PTA活動に貢献された五十二名の方々が当連合会長から表彰された。次いで広報紙コンクールの表彰が行われ、最優秀賞足羽高校PTA以下八校PTAが表彰された。

続いて議事に移り、平成二十三年度事業報告、会計決算報告、会則等の一部改正が承認されたあと役員の改選が行われ、会長に掛谷龍一科学技術高校PTA顧問が再選された。退任役員を代表して新谷正浩副会長、新任役員を代表して掛谷会長の挨拶のち議事が再開され、平成二十四年度事業計画案・予算案、全国高P連福井大会準備委員会の設立について(案)が審議のうえ承認され、年次総会は終了した。

平成二十四年度の年次総会が六月七日(木)、AOSSA県民ホールで、三十二校から会員百九十名が参加して行われた。まず掛谷龍一会長は、「何が起こるか予測のつかない時代を迎えたが、そのためにも親としての力をつけなくてはならない。平成二十三年度は、二十四年の県高P連創立五十周年記念事業、二十六年の全国高P連研究大会福井大会開催に向けて、その準備に着手した、慌ただしい一年だった。本年度は、十一月の五十周年記念式典・記念祝賀会の成功に向けて、また二月の記念誌の発行に向けて、実行委員会を中心に取り組んでいかなければなりません。忙しい一年になると思うが、みんなで協力しながら頑張っていきましょう。」



一、被表彰者氏名(敬称略)

*県教育委員会表彰

東洋子(丹南)
西島和之(金津)

新谷正浩(敦賀工業)
松村充(丹生)

内藤治(若狭)

*県高等学校PTA連合会長表彰

各校より推薦されたPTA役員五十二名

二、平成二十四年度役員氏名

会長掛谷龍一(科学技術)
副会長



真田(大)正野



岩尾(丹)勝三



大野(美)正樹方



高橋(敦賀気比)一郎

理事 谷出雅博(大野東・奥越明成)
田中敏恵(丹南)
監事 森石美由貴(福井農林)

岡本良典(福井商業)
高岡康次(若狭東)
雄治(武生商業)

三、平成二十四年度七月以降の主な大会・研修会

*全国大会準備委員会設立総会

七月二十一日 県生活学習館

*全国高P連大会

八月二十三日～二十四日 和歌山市他

*PTA指導者地区研修会

嶺南九月八日 県三方青年の家

嶺北九月十五日 県生活学習館

*キャリアガイダンス研修会

十月十三日 県立図書館

*県高P連創立五十周年記念式典・祝賀会

十一月十日 韶のホール・ユアーズホテル



六月十六日(土)午後一時三十分から、各校PTA会長会議がAOSSAで開催されました。最初の全体会では、今年度の重点取り組みである県高P連創立五十周年記念事業、二年後に迫った全国高P連研究大会福井大会に向けての準備等について、事務局からこれまでの取り組みについての説明があり、それに基づき協議が行われました。その後、総務・健全育成・進路対策・調査広報の四委員会に分かれて、本年度

の活動内容について熱心な議論が行われました。特に、県高P連創立五十周年記念事業については、総務委員会が「総務部会」、健全育成委員会が「式典部会」、進路対策委員会が「祝賀会部会」、調査広報委員会が「記念誌部会」をそれぞれ担当するため、今後の準備の進め方について、熱心に議論が行われました。最後に全体会で、それぞれの協議の結果を報告しあい、会議は終了しました。

各校PTA会長会議

今年度の活動について協議

福井県の高校教育の取組みについて

福井県教育庁高校教育課

はじめに

近年、さまざまな分野でグローバル化や高度情報化が進展し、社会が急激かつ複雑に変化しています。このような状況の中で、子どもたちに「生きる力」を身に付けさせ、国際的な視野を持つてたくましく未来を切り拓いていくように育てることが教育の課題となっています。

本稿では、この課題を踏まえ、本県が取り組む高校教育について御紹介します。

高校生の学力向上について

平成二十三年九月に策定された福井県教育振興基本計画では、生まれたときから高等学校卒業まで、一貫性のある「福井型十八年教育」を推進することが謳われています。この目標の達成を目指し、具体的な施策に取り組むため、今年五月に「福井県学力向上センター」が設置されました。高校教育課においては、このセンターのもとで、「高校生学力向上委員会」を組織し、さまざまな取組みを行っています。

今年の取組みの中で、特に重点的に実施するものを三点御紹介します。

一点目は、全県立高校生を対象とした学習意欲・学習状況・授業満足度調査の実施です。学力向上のためには、生徒の学習意欲や学習への取組み状況を把握し、その分析結果を踏まえて、生徒の学習状況を改善するとともに、教員の授業改善を図ることが大切であると考えています。

二点目は、校内での授業研究を充実

英語教育について

本県では、平成二十五年度からの新学習指導要領の施行に先行して、英語を使用する機会の充実に努めてきました。これまで、外国語指導助手（ALT）を生徒千人当たり一・九人と、全国平均（〇・九人）の約二倍採用し、生徒が生の英語に直接触れる機会を確保していました。



公開授業の様子



高校生英語キャンプ
(写真は福井県提供)

百名を米国ニュージャージー州等に派遣しました。本県は、これらの取組みを今後も発展的に継続していくことを目指しています。また、英語力向上に意欲的な高校生教材等の作成です。大学入試センター試験の結果や、国公立大学の個別試験問題を分析し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、入試問題の詳細な解説や学習の仕方などをまとめた手引きを作成し、各学校に配付します。

百名を米国ニュージャージー州等に派遣しました。本県は、これらの取組みを今後も発展的に継続していくことを目指します。また、英語力向上に意欲的な高校生教材等の作成です。大学入試センター試験の結果や、国公立大学の個別試験問題を分析し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、入試問題の詳細な解説や学習の仕方などをまとめた手引きを作成し、各学校に配付します。

百名を米国ニュージャージー州等に派遣しました。本県は、これらの取組みを今後も発展的に継続していくことを目指します。また、英語力向上に意欲的な高校生教材等の作成です。大学入試センター試験の結果や、国公立大学の個別試験問題を分析し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、入試問題の詳細な解説や学習の仕方などをまとめた手引きを作成し、各学校に配付します。

百名を米国ニュージャージー州等に派遣しました。本県は、これらの取組みを今後も発展的に継続していくことを目指します。また、英語力向上に意欲的な高校生教材等の作成です。大学入試センター試験の結果や、国公立大学の個別試験問題を分析し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、入試問題の詳細な解説や学習の仕方などをまとめた手引きを作成し、各学校に配付します。

また、英語教育の改善や生徒の英語力の向上には、学習指導を行う教員の英語力・指導力の強化が極めて重要であります。本県の英語科教員の研修としては、経験年数に応じた基本研修や県教育研究所が企画・実施する研修講座のほか、高校教員を対象とした英語科教員集中セミナーがあります。

平成二十四年度からは、これらに加え、新学習指導要領の趣旨に沿って「授業は英語で行うこととする」英語教育の研究実践を行うため、英語指導改善拠点校に指定された高校四校（金津、武生東、若狭、福井商業）を中心に、公開授業や授業研究会を実施し、地域内の学校に成果の普及を図ります。



土曜スクールでのALTとの交流
(写真は福井県提供)



ふくい理数グランプリ

理数好きの裾野を広げ、トップを伸ばすサイエンス教育を目指し、様々な施策を実施しています。

平成二十年度からは、中・高校生の科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を目的として、「ふくい理数グランプリ」を開催しています。個人または



高校生海外語学研修結団式
(写真は福井県提供)

サイエンス教育について

職業教育の充実について

不登校生徒とは……

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的原因・背景により登校しない、または登校できないで、年間三十日以上欠席した生徒

中途退学生徒数は平成十八年度以降、減少を続けていますが、不登校生徒数は二十年度以降、増加しています。

平成二十一年度の県内高校（県立・私立）における中途退学生徒数は三百十一人（前年度は三百四十九人）、不登校生徒数は四百三人（前年度は三百三十六人）でした。

高校生の中途退学と不登校

課題研究は、課題を設定し、その解決を図る学習を通して、専門的な知識・技術の深化や問題解決能力等を育む科目です。課題研究の成果を発表する機会を設け、中学生や保護者、県民に職業学科の魅力を広くPRします。

最後に、本県では、平成二十四年度から英語教育推進室を設置し、実生活の中に活ける国際感覚や使える英語力を養う「英語教育」を推進し、「ふるさと福井」に誇りを持ち、グローバルな視野を持つて活躍できる人材を育成したいと考えています。

また、熟練技術者や専門家を学校に招き、商品の共同開発や難関資格の取得にご協力をいただきたり、生徒の勤労観や起業家精神を育み、将来、地域の産業や社会の担い手となる人材の育成を目指します。

さらに、平成二十五年二月十六日（土）には、各学校・学科の代表が福井県民ホール（アオツサハ階）に集まり、「課題研究合同発表会」を開催します。

- ① 県総合福祉相談所（児童相談課）
TEL 0776-245138
- ② 県教育研究所（教育相談課）
TEL 0776-364852
- ③ 敦賀児童相談所（相談判定課）
TEL 0776-220858
- ④ 嶺南教育事務所（教育相談室）
TEL 0776-561310

武生高等学校池田分校

Introduction




池分祭2日目 PTA役員中心のカレー作り
五月十七日の夕方、武生高校池田分校を訪問しました。武生東高校と同じ丹南地区にあり、それほど離れていませんが、大きな山で阻まれているせいかもしれません。

いか、車を走らせるに従い空気が変化していき、学校に到着すると、そのアツトホームでゆつたりとした雰囲気がとても心地よく感じました。学校では、中道昭一PTA会長と佐飛克彦教頭、担当の古川慶子先生が待つていてくださいました。

中道会長は同校のご出身で、佐飛教頭も池田町にお住まいがあり、池田分校開設以来の名称の変更や、定時制から全日制への移行、校舎の移転など沿革について詳しくお話を伺うことができました。



PTA代議員会(役員会)

(取材 武生東高校PTA前会長 橋本勝利)

徒が在籍し、一学年一クラスの少人数で一人一人に手厚い授業、生徒全員が主役になる学校行事という利点とともに、保護者とも連絡が密になりやすいとのお話をでした。

続いてPTA活動についてのお話を伺いました。この分校の生徒は主に越前市内から通学しており、保護者が定期的に集まらないのが悩みだそうです。それでもPTA総会にはおよそ三分の一の保護者が出席し、また文化祭ではPTA役員が中心となり、生徒全員に無料でカレーライスをふるまうなど、積極的な活動の様子を垣間見ることができます。また昨年度は生徒用の個人人口ッカーを寄贈し、今年度は校内マラソン大会における給水ポイントの設置を検討しているとのことで、生徒のためにという強い思いが伝わってきました。

町内の有識者からなる池田分校育成会からもバツクアップされているとのことで、地域の方々の期待を集め、地域に根ざした分校であることがわかりました。

また、昨年度からスープ・サイエンスハイスクールに指定され、二月にはノーベル化学賞の根岸英一先生を招いて、講演会や実験教室を開かれたそうです。今年度も大学との連携授業やアメリカ研修等が計画されており、伝統に基づきながらも、新しいことに挑戦していくエネルギーを感じました。

さて、若狭高校PTAでは、進路対策、健全育成、広報の三つの委員会が設けられています。進路対策委員会の主な事業は、研修旅行とキャリア講話です。研修旅行は七月に、大学訪問を中心に行われているそうです。一昨年は名古屋大学、昨年は同志社大学を訪問されたとのこと。中でも好評なのは、その大学で学んでいる若狭高校卒業生との懇談会だそうで、大学生活の様子や受験の体験談を、子どもと同年の代の

この企画は、調査広報委員が直接「ちょっとおじゃま」し、伺った話の中から委員独自の感性でこれはと思われるものを紹介していくものです。

若狭高等学校

Introduction



順造門

学生の生の声として聞けるのでとても参考になるそうです。また、キャリア講話は、一年生対象にキャリア意識の啓発を目指して行われており、PTAが講師の紹介を行っているそうです。健全育成委員会の主な事業は、祭の際の夜間見回りと交通安全指導です。祭の見回りは、八月上旬の夏祭りと九月中旬の放生祭の二回、近隣の学校の創立百五周年を記憶に新しく迎える、県下で二番目に古い歴史を持つ伝統校の重みを感じられます。文武両道の進学校であり、国公立難関大学に多数合格者を出します一方、部活動でも全国レベルで活躍しているとのことです。中でもボート部のインターハイ三年連続優勝は記憶に新しいところです。

また、昨年度からスープ・サイエンスハイスクールに指定され、二月にはノーベル化学賞の根岸英一先生を招いて、講演会や実験教室を開かれたそうです。今年度も大学との連携授業やアメリカ研修等が計画されており、伝統に基づきながらも、新しいことに挑戦していくエネルギーを感じました。

さて、若狭高校PTAでは、進路対策、健全育成、広報の三つの委員会が文理探究科に改編されました。今後も高校再編に伴う学科改編が計画されていて、PTAとしても検討すべき課題がたくさんあるとのことでした。少子化が進む中、教育環境の変化は避けられませんが、子どもたちが生き生きと学べる環境を作っていくことが何よりも大切だと感じました。

(取材 美方高校PTA前会長 田辺治和)

最優秀賞に足羽高校

第9回 広報紙コンクール

平成24年度の広報紙コンクール審査会が、4月21日(土)県生活学習館で行われた。

このコンクールは、各校の広報紙の質のレベルアップと会員に対する広報活動の充実を図ることを目的に、平成16年度から実施している。今回で9回目を迎えた。

平成23年度中に各校が発行した広報紙を対象に、特別審査員として、株福井新聞社・編集局メディア整理部長の川崎嘉久氏、河和田屋印刷株営業部長の山形徳義氏をお願いし、掛谷龍一會長と調査広報委員7名で審査を行った。

各校のレベルが年々向上し、どの学校の広報紙も創意工夫がこらされており、甲乙を付けるのが困難だと何人もの審査員がおっしゃった。長時間に渡って、①会員の求める情報ニーズに合っているか。②情報を簡潔に、要領よく伝えているか。③「読み易さ」という点で工夫しているか。④レイアウトの面で工夫されているか。⑤写真やカットを有効に使っているか。等の視点から慎重に審査を行い、次の8校を選んだ。そして、6月の年次総会の席上で表彰式を行った。

***最優秀賞 足羽高校**
***優秀賞 金津高校 鮎江高校**
***佳作 春江工業高校 丸岡高校 藤島高校**
丹南高校 武生高校



八月の全国大会は和歌山県で

本年度の全国大会は、「和をもつて響き合え!」～つれもて広げる共育の輪～をテーマに、八月二十三日(木)・二十四日(金)に和歌山ビッグホエールを主会場で開催されます。

本県は、分科会での発表が今年はありませんが、二年後には全国大会を主管しなければなりません。その調査・研究を兼ねて、多数の会員の参加をお願いします。

また、全体会会場には全国の優れた単P広報紙が展示されます。本県からは、足羽高校と藤島高校の広報紙を出展します。大会に参加される方は、全国の広報紙をご覧いただき、自校の参考にしていただけたいと思います。

自転車事故を起こさないために

高校生の自転車事故が増えています。自転車に乗った高校生が被害に遭うばかりでなく、高校生の自転車が歩行者にぶつかり大きな人身事故を引き起こす事例もあります。交通事故は、被害者・加害者の双方を苦しめるものです。自転車事故を起さないために、正しい自転車の乗り方を家庭でも話題にして欲しいと思います。高P連事務局には、「起こつた後ではもう遅い!『自転車事故の恐ろしさ』」という日本コープ共済生活協同組

INFORMATION

インフォメーション

合連合会作成の一寸一分のDVDビデオがありますので、PTA研修会等にご活用下さい。

なお、七月二十一日(土)から三十日(月)まで、夏の交通安全県民運動が実施されます。夏の行楽期を迎えますが、飲酒運転やスピードの出し過ぎ等の無謀運転、疲労による過労運転等をなくし、交通事故の防止に努めたいものです。

高校生オーストラリア研修に十三名が参加

今年で十一年目を迎える当連合会主催の「福井県高校生オーストラリア生活体験研修」は、八月三日(金)から十七日(金)までの十五日間、クイーンズランド州ブリスベン郊外で県内六校から十三名が参加して実施します。現地の高校では、午前は英語レッスン、午後は授業やスポーツを通じて相互の高校生の交流を深めます。また、ゴールドコースト等の一日観光や大学・日系企業訪問なども予定されています。週末はホストファミリーとまさしく家族の一員として過ごします。多感な高校時代に、外国から見た日本を知ることは、人間形成や将来の進路決定に大きな影響を与えることでしょう。いろいろな体験を積んできて欲しいと願っています。

事務局所在地

〒九二八二三 福井市下六条町一四一
福井県生活学習館二階
TEL 〇七七六一四一四〇五三
FAX 〇七七六一四一四〇二三

高校生総合保障制度 発足後18年目を迎えて

平成七年度発足しました高校生総合保障制度も、**今年度加入者は一、四〇名**を数えました。保護者各位ならびに学校関係者各位のご理解とご協力のもと、当制度は各高校のPTAの事業として推進が図られています。

毎年増加している自転車の事故に重

点をおいた補償プランもご用意しており、自転車による賠償事故や搭乗中の生徒本人のケガについて大きな補償を設定しています。

ところでこの時期になりますと、当制度に未加入の保護者の方から「入学時に手続きを忘れたので……」「子どもがクラブ活動を始めたので……」などの理由から中途加入をご希望されるケースがあります。まだ、加入手続きされていない保護者におかれましては、このような場合にも備えて是非、当制度の加入をご検討いただければ幸いであります。**中途加入をご希望される方がいらっしゃいましたら下記の「高校生総合保障制度」事務局宛てご連絡いただければお手続きをご案内いたします。**

○保険金の請求方法

保険金の請求についてはお手元に入者証をご用意のうえ、事故受付専用フリーダイヤル（0120-300-399）までご連絡ください。

1. 概要

- (1)傷害補償：加入了した高校生の3年間、1日中24時間のケガや万一の場合について補償されます。※Sプランについては病気補償もされます。
- (2)賠償責任：高校生があがまつて他人にケガをさせたり、他人の物を壊したときの法律上の賠償責任が補償されます。
- (3)加入了した高校生だけでなく、同居の家族全員が利用できる「医療・健康相談」制度があります。（通話料無料）
- (4)この制度は、主として新入生を対象としています。

2. 内容（Sは病気補償+地震補償、Aは地震補償付き）

補 償 内 容	病気補償+地震補償		地 震 补 償		自転車重点補償		
	S プラン	A プラン	B プラン	C プラン			
①個人賠償責任補償 (一事故あたりの支払限度額)	(最高) 5,000万円	(最高) 3,000万円	(最高) 3,000万円	(最高) 3,000万円	(最高) 3,000万円		
②育英費用補償	(一時金) 100万円	(一時金) 100万円	(一時金) 100万円	(一時金) 100万円	(一時金) 100万円		
③学校管理下動産補償 (自己負担額1,000円)	契約年度毎に 最高 5万円	契約年度毎に 最高 5万円	契約年度毎に 最高 5万円	契約年度毎に 最高 5万円	契約年度毎に 最高 5万円		
④自転車事故による 傷害(ケガ)の補償	死亡保険金額	610.1万円 (475.5万円)	584.2万円 (462.6万円)	572.1万円 (459.7万円)	519.2万円 (429.7万円)		
	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約 18.3万円～610.1万円 (約14.2万円～475.5万円)	約 17.5万円～584.2万円 (約13.8万円～462.6万円)	約 17.1万円～572.1万円 (約13.7万円～459.7万円)	約 15.5万円～519.2万円 (約12.8万円～429.7万円)		
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	補償しません		
	入院保険金日額 (180日限度)	6,100円	5,900円	5,500円	4,000円		
	通院保険金日額 (90日限度)	3,400円	3,200円	3,000円	2,000円		
	⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高 50万円	最高 50万円	補償しません			
⑤自転車事故以外の 傷害(ケガ)の補償	死亡保険金	230.1万円 (167.5万円)	204.2万円 (154.6万円)	192.1万円 (151.7万円)	139.2万円 (121.7万円)		
	後遺障害保険金 (障害の程度によって)	約 6.9万円～230.1万円 (約5.0万円～167.5万円)	約 6.1万円～204.2万円 (約4.6万円～154.6万円)	約 5.7万円～192.1万円 (約4.5万円～151.7万円)	約 4.1万円～139.2万円 (約3.6万円～121.7万円)		
	手術保険金 (所定の手術の種類によって)	2.1・4.2・8.4万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.9・3.8・7.6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	1.5・3・6万円 (入院を伴う手術が対象1事故あたり1回)	補償しません		
	入院保険金日額 (180日限度)	2,100円	1,900円	1,500円	補償しません		
	通院保険金日額 (90日限度)	1,400円	1,200円	1,000円	補償しません		
	⑥傷害医療費用補償 (1事故あたり)	最高 50万円	最高 50万円	補償しません			
⑦細菌性食中毒補償	補償します						
⑧熱中症補償	補償します						
⑨地震・噴火・津波補償	上記②⑤⑥の内容で補償します						
⑩病気の補償	疾病入院医療保険金日額 (1泊2日以上の入院・60日限度)	2,000円	補償しません				
	疾病手術医療保険金 (所定の手術の種類により)	2・4・8万円					
	疾病入院療養一時金 (60日以上の入院が必要と診断された場合)	20万円					
24時間医療健康電話相談	あり	あり	あり	あり	あり		
制 度 掛 金 (3年間一括)	35,000円	28,000円	20,000円	10,000円			

制度掛金には制度運営費140円を含みます。上記保険金額・掛け金制度は、加入者1,000名以上の場合は1,000名未満の場合は保険金額が変更になります。詳しくはパンフレットにてご確認ください。

● お問い合わせ先・連絡先 ● 福井県高等学校PTA連合会「高校生総合保障制度」事務局

〒910-0006 福井市中央3-3-23 北陸中央ビル5階 AIU保険会社内 TEL 0776(28)0144(月～金、9:00～17:00)
引受保険会社/AIU保険会社(幹事)・あいおいニッセイ同和損害保険株・株損害保険ジャパン・三井住友海上火災保険株